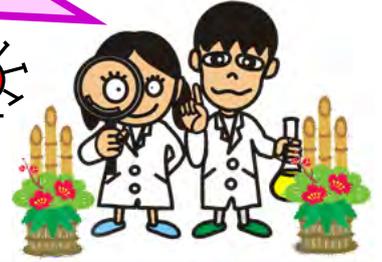


感染症に気をつけよう!

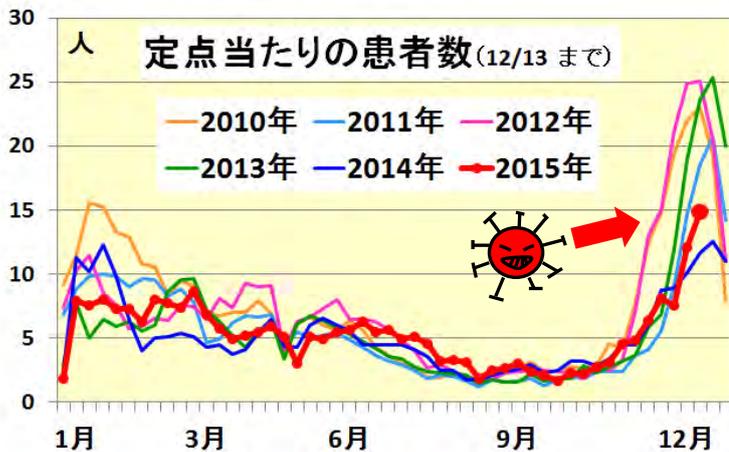
2016年【1月号】



横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明
			【解説付き既刊号等】 ← クリック
感染性胃腸炎	流行	増加	ノロウイルスなどの感染が原因で、主な症状は嘔吐・下痢等です。既に3区で警報レベルの報告数です。【'15.12号】
咽頭結膜熱(プール熱)	流行	増加	この時期としては大変多いです。鼻水・目やに等からうつるので、手洗いを習慣づけ、タオルは専用にしましょう。【チラシ】
RSウイルス感染症	やや流行	横ばい	例年より多い状況が継続中です。繰り返しかかったり重症化も起きます。予防には正しい手洗いが大切です。【'15.10号】
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	やや流行	増加	風邪に似た症状ですが、腎炎等の合併症もみられます。警報レベルの区もあり、年末にかけて注意が必要です。【'15.3号】

今、気をつけたい感染症 ノロウイルスによる感染性胃腸炎



■今シーズンは、新しいタイプのノロウイルス(遺伝子型 G II.17 の変異型)が、全国的に流行の中心になるとみられていて、国が注意を呼びかけています。■この変異型ウイルスは市内でも検出されており、引き続き注意が必要です。

■ノロウイルスは患者の便や嘔吐物に含まれ、手や食物を



介して、ごく少量のウイルスが口から体内に入っただけで感染します。■症状が治った後や、感染しても症状が出なかったケース(不顕性感染)でも、ウイルスは便の中に排出されています。



■予防方法としては、正しい手洗いが重要です。消毒には、次亜塩素酸ナトリウムを使います。■患者の便や嘔吐物の処理は、感染を広げてしまう恐れがあるため、特に慎重に行いましょう。■食品の調理では、中心部までよく加熱(85~90℃で90秒以上)すれば安心です。



横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】

